

## 建設 PM 構成の体系化 建設 PM の概念（3） -

建設技術研究所 正 磯部 猛也

### 1. はじめに

本報告では、「建設マネジメント委員会建設 PM 研究小委員会」で検討した研究成果 1.2)のうち、建設 PM の体系化に関して、要求事項に対応するマネジメント要素（PMBOK では知識エリア）の同定について検討し、マネジメント要素の分類と構成の手順について整理した。さらに、構築した建設 PM 構成の基本的概念についてとりまとめている。

### 2. 要求事項に対応するマネジメント要素の同定

前報、「建設 PM の理念と定義 - 建設 PM の概念(2) - 」で述べられているように、建設 PM 構成の構築の方法論として、「プロジェクト要求事項充足」の PM 原則を定め、公共事業のプロジェクトを対象に（民間事業にも準用）要求事項すなわち顧客満足、自体満足を充足させるための PM を開発した。

要求事項を充足させていくための機能が建設 PM であるという原則をもとに、まず要求事項の整理・分類を行った。ここで、同一プロジェクトにおいても受注者、発注者、地域 / 社会の立場により要求事項が異なるため、プロジェクトの関係体を受注者、発注者、地域住民 / 社会と分け、要求事項を整理した同上報告 表 - 1 参照。表 - 1 から明らかなように、受注者 PM における顧客満足は、発注者 PM における自体満足を充足する項目が整理され、同様に発注者 PM における顧客満足は、社会 PM における自体満足を充足させる項目が整理された。

次に、前報の表 - 1 で示した各要求事項充足に必要なマネジメント要素を抽出した。その結果を表 - 1 に示す。

表 - 1 要求事項とマネジメント要素の対応一覧

PM区分	要求事項	マネジメント要素	PM区分	要求事項	マネジメント要素
社会 PM	自体満足(SS) 透明性・公平性 環境保全(自然、住民) 社会的価値 住民ニーズ	コミュニケーションマネジメント、情報管理 環境マネジメント、環境管理 評価マネジメント、ライフサイクルマネジメント コミュニケーションマネジメント、品質マネジメント	受注者 PM	技術蓄積 組織活用 / 機能	技術マネジメント 組織マネジメント
			発注者 PM	顧客満足(CS) (社会 PM の SS と同等)	
受注者 PM	顧客満足(CS) (発注者 PM の SS と同等)			自体満足(SS) 品質・仕様(Q) 事業費(予算)満足(Q) 工程満足(D) 安全確保(S) 環境保全(自然・住民) 合意形成 発注者責任 事業評価(前・中・後)	品質マネジメント、品質管理 コストマネジメント、予算管理、原価管理 タイムマネジメント、工程管理、進捗管理 リスクマネジメント、安全管理 環境マネジメント コミュニケーションマネジメント、リスクマネジメント コミュニケーションマネジメント、情報管理 評価マネジメント、ライフサイクルマネジメント、コストマネジメント
	自体満足(SS) 利益確保(c) 工程確保(d) 品質確保(q) 安全確保(s) 自己実現(能力向上)	原価管理、利益管理 タイムマネジメント、工程管理、進捗管理 品質マネジメント、品質管理、計測管理 リスクマネジメント、安全管理、計測管理 技術マネジメント			

### 3. 建設 PM 構成の構築手順

表 - 1 から、建設 PM 構成を構築するための手順を整理すると以下のとおりである。

#### 構築の手順

**Step 1** : プロジェクト関係体と要求事項の整理・体系化（前報表 - 1 参照）

プロジェクト関係体として「受注者」「発注者」「社会」に分けて、顧客満足と自体満足を係わる要求事項を整理

キーワード：PM（プロジェクトマネジメント）、建設 PM、建設 PM 構成、マネジメント要素

東京本社情報部、338-0804 埼玉県さいたま市上木崎 1-14-6、Tel048-835-3623,Fax048-835-3671

**Step 2**：要求事項とマネジメント要素の対応一覧（本報表 - 1 参照）

各要求事項充足に必要なマネジメント要素を抽出・整理

**Step 3**：マネジメント要素と要求事項の対応一覧

マネジメント要素を分類基準に置き換えて再整理（各マネジメント要素がどの関係体のどの要求事項を充足させるためのものであるかの明確化）

**Step 4**：建設 PM 構成の構築

（ 建設 PM Breakdown Structure ）

#### 4．建設 PM 構成の概念

上記手順により作成した最終的な建設 PM 構成は図 - 1 のとおりである。

モダン PM において、PM の知識エリア(マネジメント要素)を体系化したものに、米国の PMI-PMBOK と英国の APM-BOK があるが、それらと比較して、本研究で作成した建設 PM 構成には以下のような特徴がある。



図 - 1 建設 PM 構成

(a) 「統合マネジメント」の最上位に位置づけた

(理由) 各種のマネジメント要素を統合し、コントロールし、プロジェクトの全体最適化や生産性の向上を目指す機能を持たせるため。

(b) 統合マネジメントの中に、「スコープマネジメント」「リスクマネジメント」「コミュニケーションマネジメント」を入れた

(理由) プロジェクトの全体最適化と生産性向上を図る上で、直接的に関係するとともにそれらの影響度が大きいため。

(c) 次いで、「技術マネジメント」と「運営マネジメント」を位置づけた

(理由) 「技術マネジメント」は、顧客満足の対応が中心で、最終目的物の品質や機能の確保およびその評価を、一方「運営マネジメント」は自体満足の対応が中心で、プロジェクトの推進やプロジェクトチームの運営を対象としているため。

なお、図 - 1 に示す 14 の個別マネジメント要素の概念については、次報告、「マネジメント要素の概念 - 建設 PM の概念(4) - 」に譲ることとする。

#### 参考文献

- 1) 建設 PM 研究小委員会：国内建設産業における PM のあり方とヴィジョンの提言、建設とマネジメント XIX、土木学会建設マネジメント委員会、pp.109~153、2001 年 3 月
- 2) 吉田典明、他：国内建設産業における PM のあり方とヴィジョンの提言、第 19 回建設マネジメント問題に関する研究発表・討論会講演集、土木学会建設マネジメント委員会、pp.147~150、2001 年 11 月